

北朝鮮との対話条件緩和 政府、雑談名目で応じる 米と歩調、拉致交渉探る

1 / 1

2018/02/27 2:00

日本政府が、北朝鮮との対話条件を事実上緩和していたことが分かった。北朝鮮が核放棄を明言しなくても「雑談」を名目とした会話であれば応じる方針に変更した。複数の政府筋が26日、明らかにした。北朝鮮による核放棄への意思表示や具体的行動への着手を対話の条件とした従来の姿勢を軟化させた形で、対話解決をにらみ米朝ハイレベル接触を試みた米国と歩調を合わせる狙いだ。北朝鮮との拉致交渉の再開を探る意図もある。

北朝鮮の核保有を前提とする交渉は、引き続き拒否する。「北朝鮮は核をカードに利益を引き出そうとする。米国もそうした話し合いには応じない」（外務省幹部）との判断が背景にある。核・ミサイル問題の打開に向け、米国と緊密に連携しながら北朝鮮との間合いを縮めたい考えだ。ただ具体的な日朝接触は「現時点で予定していない」（同）としている。

対話条件の緩和は日米調整を踏まえている。日本政府筋によると、日米双方は今月上旬、北朝鮮との「正式な対話」（英語のdialogue）には応じないとの認識を確認した。「正式な対話」は交渉を伴う話し合いを指す。交渉以外のあいさつや公式見解の伝達は「雑談」（chat）と位置付け容認する。

日米が擦り合わせた際、米国のペンス副大統領は金正恩朝鮮労働党委員長の妹、金与正氏と接触しようとしていた。この方針は事前に日本側に伝えられ、実現すれば日米の北朝鮮対応にずれが生じかねないとみて、日本側が対話条件を緩めた公算が大きい。接触は実現しなかったが、ペンス氏は与正氏に米国の圧力強化方針を伝達する意向だったとされる。

安倍晋三首相も、訪韓中の9日に北朝鮮の金永南最高人民会議常任委員長と短時間言葉を交わした。対話条件の緩和を受けた対応とみられる。菅義偉官房長官は26日の記者会見で「わが国の考え方を直接伝えることは重要だ」と表明した。

北朝鮮対応に関し、米國務省報道官は13日、本格交渉入りの前に議題の設定を話し合う「予備的協議」を行う可能性があるとの考えを示していた。

[共同通信]